

ゆるぎ<sup>かん</sup>観<sup>のん</sup>音



文と絵 くまのの絵本作り隊



くまのちやう  
熊野町に、「ゆるぎ岩」といふ

おお  
大きな岩があります。

ちか  
その近くに、「ゆるぎ観音」といふ

かんのんさま  
観音様がまつられています。



むかしむかし、熊野くまのに  
水木嘉右衛門みずきかえもんという  
とてもよい人ひとがいました。

嘉右衛門さんは、長い間  
目の病気にかかっていたました。  
悪いことに、その病気は  
なかなか治りませんでした。





「目が見えんと、本も読めんし、

手紙を書きとうても、書くこともできん。」

「人が来てくれても

わからんし。」

「一人で外へ出るのも

こわいのう。」

嘉右衛門さんは、とても困っていました。





そこで、嘉右衛門さんは

「ゆるぎ観音」にお参りをしました。

「観音様、どうかこの目を治してくれんさい。」

と、三日三晩休まずに、お願いをしました。



そして、おいのりをしながら  
山やまからわき出でる水みずで、  
目めをしっかりと洗あらいました。



すると、どうでしょう。

目の病気が治ったのです。

目を開くと、前が見えます。

嘉右衛門さんは、びっくりしました。

「観音様が見える。わき水も見える。」

昨日まで何も見えなかったんじゃに。」



「観音様、ありがとうございました。」

急に目の前が明るくなりました。

これも、観音様のおかげです。」

嘉右衛門さんは、観音様に

何度も何度もお礼を言いました。

「嘉右衛門さんの目が治ったげな。」

「なんでも、ゆるぎ観音様をお願いして、

山のわき水で目を洗ったら、

治らんかった目の病気が治ったんじゃと。」

「そがぁにありがたい観音様なら、

もっと大切にせんにやあいけんのう。」

観音様のご利益を知った村の人たちは、

そこに観音堂を建てました。

観音様の力でみんなが救われるように、

その後もずっと、わき水もゆるぎ観音も

大切にしました。





今<sup>いま</sup>でも、嘉<sup>か</sup>右<sup>え</sup>衛<sup>もん</sup>門<sup>さん</sup>さんの目<sup>め</sup>を治<sup>なお</sup>した  
わき水<sup>みず</sup>とゆるぎ観<sup>かん</sup>音<sup>のん</sup>は、  
熊<sup>くま</sup>野<sup>の</sup>町<sup>ちょう</sup>で大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>にされてい<sup>ま</sup>す。